

令和7年度全国学力・学習状況調査 朝来市小学6年生と中学3年生の 学力と学習状況の分析結果



令和7年4月 実施

調査の概要

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。

この調査によって測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面となります。さらに、テストではなく、調査と銘打たれていることから、正答率の高さではなく、考え方が定着しているかどうかを確認するためのものであると言えます。そして、出題構成は、学習指導要領がめざす授業づくりによって身に付けさせたい資質・能力に関するものが中心となっています。

調査内容（教科）

国語、算数・数学、理科

調査結果の分析

小学生

国語

全国・県平均と同程度

算数

全国・県平均と同程度

理科

全国・県平均と同程度

中学生

国語

全国・県平均と同程度

数学

全国・県平均をやや下回る

理科

全国・県平均と同程度



小学校各教科の結果

国語

全国・県平均と同程度

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 情報と情報との関係付けの仕方や、語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができています。
- 2 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。
- 3 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報をみつけることに課題があります。

文章の要旨を捉えた上で要約したり、まとめたりするなど、文章から伝えたい要点を抽出する力や、図表が何のために作成されたのか、またその図表が文章のどの主張の裏付けや根拠になっているかなど、その目的が理解できていないことが課題の一因ではないかと考えます。

小学校（国語）総括

- 1 言語活動を充実させる授業づくりの工夫

文章の要旨を捉えさせたり、要旨をまとめさせたりする学習活動の充実が必要です。要旨を捉えさせるためには、文章全体の構成から、事実と感想、意見などの関係を丁寧におさえていく必要があります。

複数の資料を結びつけて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが大切です。その際、目的に応じた資料を選択させたり、大切なワードを線で結んだり、囲んだりさせることで、必要な情報を整理させます。

ICT 機器の共有アプリを活用し、調べた文やメモ、資料などを共有させ、協働的な学びから、考えの共通点や相違点、新たな気づきが生まれやすいような手立てを行うことが考えられます。

本やインターネットなどから必要な情報を選択し、根拠となる言葉や文を抽出し、資料に書かれている文章の要旨を捉えたり、必要な情報を確かめたりする活動を取り入れます。

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 異分母の分数計算が確実にできています。
- 2 複数の情報から、場面に基づいて必要な情報を見だし、それらの数量関係を捉えて、その関係を式や言葉の式に表現できています。
- 3 1目盛りがあらわす量を理解し、計器を正しく読むことができます。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 異分母の分数の加法を計算できますが、なぜその方法を使うのかを理解することに課題があります。
- 2 表し方が抽象的になると、基準となる「1」を捉えて分数で表すことに課題があります。
- 3 基準量「1」を含むこと、百分率を用いた割合の表し方に課題があります。

抽象的な数の概念の理解にあたっては、なぜそうなるのかを考えさせながら学習を進める必要があります。例えば、図や文章などを用いながら説明する学習活動を継続して取り組むことが考えられます。

小学校（算数）総括

- 1 課題を把握する学習活動の積み重ね

基本的な計算力は定着していますが、なぜその方法を使うのかを理解できていない児童もいます。自分で図をかいたり、言葉で説明したりする学習活動を今後も継続して積み重ねる必要があります。また、発達段階に応じて、半具体物、数直線など、様々な方法で課題に対する理解を深めていく必要もあります。

また課題の中には、日常生活でもよく目にする事柄も含まれることから、生活と結び付け、具体物を活用するなどして、課題の意味を把握させることが大切です。

- 2 1人1台のタブレット端末の活用

知識やスキルの習得に加え、図をかいたり言葉で説明したりする学習活動において、1人1台のタブレット端末の活用は有効です。課題やその解答の共有に活用できます。解答を見比べ、さまざまな考え方があることに気づいたり、共通点・相違点などを比べたりして、深い学びにつなげることができます。ペアやグループでの「学び合い」の場面を設定することで、「主体的・対話的で深い学び」につなげていきます。



定着傾向がみられる資質・能力

- 1 電流が作る磁力や乾電池のつなぎ方等についての知識が定着しています。
- 2 花のおしべとめしべ、受粉等についての知識が定着しています。
- 3 学習内容や児童の生活体験などをもとに根拠のある予想や仮説を予想して思考し判断することができています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 【結果】を基に考察し、その理由を表現することに課題があります。
- 2 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられる物があることについての理解に課題があります。
- 3 自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に問題を見出し表現することに課題があります。

結論の根拠を考えることの重要性を授業で意識していくことが大切です。また自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深める大切さを意識した授業展開が大切です。

小学校（理科）総括

1 「主体的・対話的で深い学び」の促進

知識に関する問題については、定着傾向が見られます。授業の中では、ペアトークやグループ学習を行うなど、対話的な学習場面を増やすことで、自分の考えが整理されます。また自分にはない視点を得られたりすることで、広く深く理解することができるようになってきています。さらに「兵庫型学習システム」の積極的な活用等によって、専門的な内容を系統立てて指導することに取り組んできた成果が出ていると考えます。

今後も、自然の事物や現象と知識とを関係付けたり、知識に相互に関連付けたりする授業の展開や、生活体験と学習内容とを結びつける学習の展開が求められます。このような取組によって、結論の信憑性を高める根拠を見出すことができるようになるなど、児童のより「深い学び」につなげていくことができます。

2 児童自らが新たな問題を見出していくことの重要性

自然界における複数の事物・現象を比較し、共通点や相違点を捉えることで、新たな疑問や問題を自分の力で見出していくことができるような授業展開を意識していくことが大切です。

中学校各教科の結果

国語

全国・県平均と同程度

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができています。
- 2 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができています。
- 3 文章全体と部分との関係に着目しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題があります。
- 2 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題があります。
- 3 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題があります。

文章の要旨の捉えに自信を持たない生徒には、読みの視点を示すことにより自分の考えを持たせます。また、生徒どうしが交流する場面（対話）の設定は、自分の考えを持つことが苦手な生徒への支援にもつながります。課題解決のためには、全ての生徒が主体的に学ぶ「授業づくりのユニバーサルデザイン化」の視点が不可欠です。

中学校（国語）総括

- 1 「授業づくりのユニバーサルデザイン化」の促進（学習活動の4段階）
授業づくりの第一歩は、生徒の学習意欲を喚起する課題設定にあります。学習活動の第1段階では、生徒が文章の概要をもとに自ら課題を設定することから始まります。第2段階では筆者が読み手に内容を理解してもらうために、どのような文章の構成や展開・表現の仕方をしているのか、キーワードや注目のポイントなど読みの視点に着目しながら、しっかりと考えさせます。第3段階では前段階で見つけた表現の仕方についてグループやクラス全体で考えを交流する活動を設定し、自分の考えを確かなものにしたり、新たに考えを広げたりすることができるようになります。それができて初めて、第4段階としての振り返りが生きたものになります。
- 2 スピーチなど表現活動の充実
1分間スピーチ（対話形式）や行事ごとの作文、礼状書きなどを積極的に取り入れて、表現（書く・話す）活動の日常化を図ります。また、読み手の立場に立って文章を整えることをテーマにした授業も、ユニバーサルデザイン化の視点で行うとより効果的です。

数学

全国・県平均をやや下回る

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 計算・関数・確率の各領域においての基礎的・基本的な内容については、正しく理解し、身につけていると考えられます。
- 2 一次関数の特徴をよく理解し、条件が変わると結果にどのような影響が表れるのか、正しく把握できています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 目的に応じて数量を式に表したり式を変形したりする際に、なぜその形に表したり変形したりするのかを理解したうえで取り組むことに課題があります。
- 2 問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。
- 3 証明における仮定が定型以外の表現で示されたときに、それを読み取る力に課題があります。

立式の際に、なぜそうなるのかを考えさせたり、数学的に説明する学習活動を繰り返し取り組ませたりする必要があります。

中学校（数学）総括

- 1 自分の言葉で表現・説明する授業の充実
文字式や図形、データの活用だけでなく、関数も含めた数学の全領域で、①なぜそうなるのか、②課題を解決するためにはどうすればいいのか、を説明する活動を充実させていく必要があります。
説明の根拠についても、暗記するのではなく、なぜそう言えるのか、そのように表現するのはなぜなのかを理解し、利用できるようにすることで、自分の考えの説明に利用できるようになることをめざします。
- 2 個別最適な学びと協働的な学びの充実
1人1台のタブレットと学習用ソフトが整備され、課題の配布、回収、添削、再配布が容易になっただけでなく、それを積み重ねて記録していける環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図っていきます。



理科

全国・県平均と同程度

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 提示された条件をしっかりと読み取り、既習事項を基に考えることができている。
- 2 考えるための資料となる内容をよく見て判断し、自分の考えを記述することができます。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 身の回りの事象から生じた疑問に触れながら問題を解決するための課題を設定することに課題があります。
- 2 元素記号など、暗記することに課題があります。

科学的に考え判断し、複数の条件を満たした回答ができるようにする授業展開や、元素記号の習得に苦手意識を取り除くため、授業で周囲と協力しながら興味を持たせたり、小テストを行っていくことも考えられます。

中学校（理科）総括

- 1 課題を持たせる授業展開の工夫
身の回りの事象等から生じた疑問や問題を解決する課題を、生徒自身が設定することができる力の育成が必要だと考えます。更には、立てた課題を解決する学習活動を通じて、導き出した結論が基になってまた新たな課題が生まれてくるということに気づくと同時に、次々と生まれてくるそれらの課題の解決に主体的に解決に取り組んでいこうとする態度を育てることが大切です。
- 2 「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実
授業で学習内容を定着させるには、個別がそれぞれ最適な方法で学びを進めたり、ペア学習やグループ学習等で協働的に学んだりする等、様々な学び方を体験することが大切です。自分に合った学び方で学習に取り組んでいくことは、学習内容の迅速で確実な定着につながると考えます。
その際、1人1台のタブレット端末を活用することも、特に個別最適な学びを進めていく中で非常に効果が上がる方法です。様々な学び方を体験させることで、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図り、学力の更なる定着をめざします。



今 後 に 向 け て

今年度の調査結果分析から、朝来市の児童生徒の学力については、基礎的・基本的な学力は小・中学校とも概ね定着していると考えられます。

また、「無回答率」については、今年度県・全国に比べ、大きな差はなく、児童生徒が問題に粘り強く取り組もうとした姿勢が見られました。今後も生活体験や既習事項と結びつけながら、粘り強く課題解決に取り組もうとする態度を育てていきたいと考えています。

しかし、「書くこと」については、依然として課題であり、授業改善が必要な状況が見受けられます。自分の考えをメモしたり、まとめたりする学習活動を日ごろの授業展開の中で今後も意識していきます。

本市では、「小小連携推進事業」や中学校区ごとの「小中連携推進事業」を実施して実践の共有と系統化を図っています。また、各校で同調査を分析し、抱える課題とその課題解決に向けた取組を協議し、学習状況の改善や教員の指導力の向上を図り、子どもたちの学習意欲や学力向上に取り組んでいます。今回の分析を基に、「自分の考えを整理するための時間の確保」や「書く活動を多く設定すること」、「自分の考えを説明し合う活動を多く設定すること」を重視した授業展開の充実に継続して取り組んでいきます。

また、平成26年度から取り組んでいる「授業のユニバーサルデザイン化モデル研究事業」においては、「授業づくりのユニバーサルデザイン化事業」として進化させ、児童一人一人の学びやすさに通じる授業改善と1人1台のタブレット端末の活用を組み合わせることで「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図ってきました。さらに、本市が作成した「授業づくりのユニバーサルデザイン化事業」に関する動画資料を活用した校内研修を実施し、子どもたちの声を生かした『生きる力』を育てる教育の充実をめざしています。そして、1人1人の児童生徒の学びが保障されるよう「朝来市教育のユニバーサルデザイン化」を進めていきたいと考えています。

今後も、学校運営協議会をはじめ地域の方々と協働して、朝来市の子どもたちが「分かる喜び」「できる喜び」を実感できる学校教育活動に取り組んでいきます。

お問い合わせ先

朝来市教育委員会事務局

学校教育課

TEL 079-672-4930

